

## I. 薬局・医療機関関連

### I. 先発、後発薬価差を自己負担に

厚労省は先発医薬品と後発医薬品の薬価の差額分を患者の自己負担にする新制度を社会保障審議会に示した。選定療養の枠組みを利用し、後発医薬品と先発医薬品の薬価の差額分を公的保険の適応外として患者が負担させる方針だ。自己負担の割合をどうするのか、供給不安が解消されていない後発医薬品に関してそもそも選択できない場合はどうするのか、など検討すべき課題はまだあるが、大きな流れは固まりつつある。

### II. 入院時食事療養費引き上げへ

中医協総会は、長年据え置かれてきた入院時の食事療養費に関して増額する方向で一致した。食材費などの高騰に対応するものであり、今後患者負担額をどうするか、具体的な引き上げ額をいくりにするかなどは、今後検討を重ねて年内には結論を出したい考えである。2023年度下半期は、重点支援地方交付金を活用し、1食あたり20円の支援金を支払う方針だ。

### III. 診療報酬、必要な財源確保を要望

日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会の三師会はそれぞれの会長による連名で2024年度診療報酬改定に向けて適切な財源確保を求める要望書をまとめた。公定価格で

運営されている医療機関や薬局が物価の高騰や医療従事者の賃上げ、医療の技術革新に対応するためには十分な原資が必要不可欠であり、今後政府、与党に財源確保を求めていく考えである。

### IV. 財務省、初・再診料引き下げを提案

財務省は11月1日に開かれた財政制度等審議会において、2024年度診療報酬改定において、診療所の初・再診料を中心に報酬単価を引き下げることにより本体部分をマイナス改定とすることが適当との主張を行った。また、マイナ保険証利用時の患者負担の軽減やリフィル処方箋の利用実績を踏まえた調整措置などにより診療所の報酬単価を引き下げる方策も探っている。

### V. 調剤後フォローアップに点数

厚労省は、中医協において調剤後の薬剤師による患者フォローアップについて2024年度診療報酬改定で評価することを論点にあげた。病院や診療所では心不全の他、糖尿病や認知症患者に対するフォローアップニーズが高く、その業務を報酬で後押ししたい考えである。方向性自体は中医協で受け入れられ、今後具体的な点数や対象疾患などの検討が進められる。

## II. 行政・技術関連情報

### I. 子宮頸がん検査、HPV 検査導入

国が推奨する子宮頸がん検診に関して、がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）感染を調べる検査が来年度から加わる予定となった。現在の検査よりも早期にがんとなるリスクが把握できるようになる。子宮頸がんは年間に11,000 人ほどが罹患し、およそ3,000 人が亡くなっており、定期的な検診による早期発見、早期治療が重要とされている。

### II. 薬剤安定供給で要望書

全国保険医団体連合会は、医薬品の供給不足が続いていることを受け、安定供給に向けた対策を求める要望書を厚労省などに提出した。欠品による処方変更で患者の健康を脅かす事態に陥る事や、先発医薬品への切り替えにより患者負担が増える、市販薬を買ってもらなど患者に対し負担を強いる事象が発生していると訴えている。

### III. 少子化対策で保険料引き上げ

政府の「次元の異なる少子化対策」の財源確保のため、負担能力に応じて医療保険料に上乗せして徴収する方針を明らかにした。今後 3 年間、年間 3 兆円台半ばの追加予算確保を目指しており、徹底した歳出削減の他、足りない分は広く

国民から支援金を集める方針であった。今後年末にかけて支援制度の具体的な設計の議論を進めていく。

### IV. 市販薬、2 類と 3 類統合へ

厚労省は、市販薬のうち、いわゆる風邪薬、総合感冒薬などが含まれる第 2 類と、ビタミン剤や保湿剤などが含まれる第 3 類に関して、消費者目線で違いが分かりにくいとの指摘を踏まえ、統合する方針である。第 3 類は販売時の説明は不要だが、統合後は、第 2 類に合わせて、販売時の説明を努力義務とする予定である。年内に取りまとめる有識者検討会の報告書に盛り込まれる予定だ。

### V. 高齢者の介護保険料引き上げへ

2024 年度介護保険制度改正に伴い、高齢者で高所得者の介護保険料を引き上げる方針である。現在、年間所得に応じて 9 段階の保険料が設定されており、最も高い段階は年間所得 320 万円であるが、新制度ではさらに 410 万円以上、500 万円以上、590 万円以上、680 万円以上の 4 段階を加えて 13 段階として、高い所得の高齢者を中心に負担を増やす方針である。一方で低所得者に対しては保険料を引き下げる措置を取る。

### Ⅲ. 企業関連情報

#### I. 中外製薬、「ゼローダ」を譲渡へ

中外製薬は、抗悪性腫瘍剤「ゼローダ錠 300」に関して、日本国内での事業をドイツに本社を置く製薬企業の日本法人、チェプラファーム社に譲渡すると発表した。製造販売承認及び特許、商標ほか日本国内の関連する資産をすべて譲渡する。これにより 2024 年春からチェプラファーム社が単独で「ゼローダ錠 300」を販売することになる予定である。

#### II. 持田、塩野義と不眠症治療薬で提携

持田製薬と塩野義製薬は不眠症治療薬「ダリドレキサント」について日本国内での販売提携契約を締結したと発表した。同剤は持田製薬とイドルシアファーマシューティカルズジャパンが共同開発した製品で 2023 年 10 月 31 日に承認申請を公表している。今回の提携で流通は塩野義製薬が担当することとなったが、販売や情報提供活動の具体的な体制は今後協議を進めることになる。

#### III. 「レキサルティ」認知症関連で適応追加

大塚製薬の抗精神薬「レキサルティ」に関して、アルツハイマー型認知症に伴うアジテーションの効能追加を申請したと発表した。現在、日本で同様の効能効果を持つ薬剤はなく、承認されれば国内初の適応

症となる。同剤は大塚製薬とルンドベックで共同開発しており、2023 年 5 月に米国でアルツハイマー型認知症に伴うアジテーションに係る効能追加を取得している。

#### IV. BMS、ROS1 阻害薬承認申請

ブリストルマイヤーズスクイブは、ROS1 阻害剤「レボトレクチニブ」に関して ROS1 融合性非小細胞肺癌を対象疾患として日本国内での承認申請を行った。同剤は ROS1、TRK A/B/C を選択的に阻害する経口の低分子チロシンキナーゼ阻害剤であり、ROS1 または NTRK 融合遺伝子を有するがん細胞の増殖を抑制する働きがある。

#### V. 日本化薬、米バイオ企業とライセンス契約

日本化薬は米バイオ医薬品企業アンハート社と新規次世代脳移行性選択的 ROS1 阻害剤「Taletrectinib」における日本での独占的販売権に関するライセンス契約を締結したと発表した。ROS1 融合遺伝子は様々ながんで確認されており、この働きを抑えることでがん細胞の増殖を抑制できる。また、進行性非小細胞肺癌の 1.5%と低頻度に見つかる強力ながん遺伝子であり、その働きを抑制する同剤は ROS1 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌に対する効果が期待されている。

## IV. 展望

### I. 技を極めた先

最近の筆者の余暇の過ごし方は料理が多い。飲食店の厨房で働いていたこともあるので、まずまずの料理を出しているつもりだ。しかし、一流には全く歯が立たないと感じる。人材業界の人間がフレンチのシェフをライバル視するのはおかしいのだが、鴨のコンフィ、スズキのポワレなどなど、そこそこのものを作れるようになり気が付いた。やはりプロにはかなわない。技術以外の何かが足りない。

料理とは全く関係ないのだが、先日マナー講師が、マナーとは所作を覚えることより、相手の立場を思いやる事の方が大事だと言っていた。ここでピンときた。技術だけでなく、心構えも覚えて初めて完成するのだと。以前見た茶道をテーマにした映画でも似たような表現があった。綺麗な所作、振る舞いも大事だが、客の事を考えて道具を選び、掃除をして室内の飾りつけをする。所作はあくまで茶道の一部であり、お客様を招いてから帰るまでのすべてが茶道なのだという事だった。

日本には、“道”がつくものがたくさんある。仏道、神道といった宗教から、剣道、柔道、弓道などの武術、茶道、華道のような文化的な活動まで広く道がある。それを見ると、どれも共通しているのが、技を習得するだけではなく、習得した技術を使って何かを目指す目的が存在する。例えば弓道は、的に矢を当てることが目的ではなく、

人格を磨き常に平常心でいられるようにすることが目的になる。

技術はあくまで手段であり、目的は別にある。道という言葉が表すように、目指すべき場所があり、技術はそこに到達するための手段でしかないという事だ。技術を磨くだけで、目的地を知らなければ、どこかであゆみが止まってしまう。

筆者もレシピを見たりプロの料理動画を見たりと、技術を磨いてきているつもりだが、あいにく料理の道を目指す場所まで教えてくれる動画はなく、技術を磨くところで足踏みしている。

会社員なら月末月初避けては通れない経費精算業務などの、経理・会計業務だって、財務会計論という学問のもと、世界中にある企業の価値、将来性などのあやふやなものを数字と言う客観的なデータに置き換え、世界中の人々が見比べられるようにする。また、それによってそれぞれの企業に適切な投資がなされる世界を作ろうという目的がある。面倒な経費精算ですら、その奥に崇高な目的があるのだから仕事でも趣味でも、世の中の様々なものには同じように技術と目的があり、技術だけを習得しても到達できない場所があるのだろう。未熟なうちは一人前になろうと技術の向上を求めがちになるがその先にある目的、心構えのようなものを知らないとどこかで成長が止まってしまうのだ。(武田)



## V. 市場動向レポート

### I. ヒト、モノ、カネ

日銀総裁が変わり、金融政策が変わりつつあるようだ。今までの金融政策が良かったのか悪かったのか、それは立場によって意見が異なるだろうが、**日本経済が成長しなかった要因**として指摘されることもある。金利が高ければ、利息返済の負担が増え、利益率の低い、つまり**生産性の低い企業は撤退せざるを得なくなる**。しかし超低金利で資金調達がしやすければ、本来であれば倒産するような企業をゾンビのように生かし続けることになる。日本は長くその状態であり、その結果経済が活性化しなかったという論調だ。

**ヒト、モノ、カネ**、これに情報を加える場合もあるが、これらが企業経営に大切な要素であると言われている。ヒトは人件費、モノは物価という形でコストがかかる。現在、このいずれも上昇を続けている。医療機関や介護施設は人件費と物価上昇に悲鳴を上げており、報酬引き上げを求めている。ただし、**カネに関しては長い間低金利政策のおかげで経営圧迫**という話にはならなかった。

しかし、諸外国の金利水準やそれに伴う為替レートなど、そして前述の論調が正しいとすれば、健全な成長を促すためにも国内の金利も上がっていくだろう。既にその兆しはあるが、もっと厳しくなる。

医療機関の収入は大半が診療報酬だ。患者からの一部負担金以外は、レセプトに基

づき保険者の審査後に支払われる。その間数か月かかる。一方で支出の半分以上は人件費であり、これは給料なので翌月には支払わなければならない。そうすると、収入が実際に入金されるまでの数か月、資金は出ていく一方だ。これを賄うためには、一定の預貯金が必要になる。いわゆる資金繰りという話で、他の産業に比べても多めに資金を持っていないと立ち行かない業種なのだ。

以前にも小欄で金利上昇が医療機関に対し大きな負担になる可能性を指摘したが、金利の上昇は企業の淘汰を加速させる。健全で収益性が高い企業は生き残るが、そうでない企業はどんどん脱落していく。新規開業にも高いハードルとなって立ちはだかる。ゼロ金利時代と比べ金利コストが高まるため、収益率もその分高くないと経営が維持できなくなる。とはいえ運営母体が公的組織であり、資金調達が容易であればその影響は免れるが、民間が中心である開業医は既存の経営継続、新規開業ともに金利が上がれば上がるほど大きな影響を受けるだろう。

今、診療報酬をめぐる議論は、ヒトとモノのコスト上昇への対応だけだが、カネの部分でのコスト上昇への対応も今後必要に迫られるだろう。経営に必要なすべてのコストが上がる一方で診療報酬が増えない、未経験の局面が間もなくやってくる。(武田)

VI. 数字で見る医療提供体制（都道府県別後発品シェア 23年7月）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				令和5年度			
		4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	5月	6月	7月	4月～7月	5月	6月	7月
	全 国	79.1	81.4	82.0	83.2	82.6	82.8	82.7	84.4	84.5	84.5	84.4
	北海道	80.6	82.7	83.4	84.2	83.7	83.9	83.6	85.3	85.3	85.3	85.2
	青 森	79.6	81.6	82.0	83.2	82.6	82.9	82.6	84.4	84.5	84.5	84.3
	岩 手	84.4	86.1	86.4	87.1	86.8	87.0	86.6	88.1	88.3	88.2	88.0
	宮 城	82.2	84.1	84.4	85.5	84.9	85.1	84.8	86.5	86.6	86.5	86.5
	秋 田	80.1	82.3	83.0	84.2	83.6	84.0	83.6	85.5	85.6	85.7	85.4
	山 形	82.7	85.0	85.4	86.7	86.0	86.3	86.1	88.0	88.1	88.0	87.8
	福 島	79.8	82.4	83.1	84.5	83.8	84.0	83.8	85.8	85.8	85.9	85.6
	茨 城	78.6	81.0	81.7	83.0	82.3	82.5	82.4	84.3	84.3	84.4	84.2
	栃 木	80.1	83.0	83.8	85.2	84.7	84.7	84.6	86.4	86.5	86.5	86.3
	群 馬	81.9	84.1	84.7	85.6	85.1	85.3	85.1	86.8	86.9	86.9	86.8
	埼 玉	80.0	82.2	82.7	84.0	83.3	83.6	83.5	85.3	85.3	85.3	85.2
	千 葉	79.6	81.8	82.3	83.7	83.0	83.2	83.2	84.9	84.9	84.9	84.8
	東 京	75.3	77.7	78.4	79.9	79.2	79.4	79.5	81.1	81.2	81.2	81.2
	神奈川	77.2	79.6	80.2	81.6	80.9	81.2	81.2	82.8	82.9	82.8	82.7
	新 潟	81.4	83.5	83.9	85.1	84.4	84.6	84.7	86.4	86.4	86.5	86.4
割	富 山	82.3	83.8	83.6	84.5	83.9	84.1	83.9	85.6	85.7	85.7	85.5
	石 川	80.5	82.2	82.4	83.5	82.9	83.1	82.9	84.7	84.8	84.9	84.6
	福 井	81.9	83.4	83.3	84.2	83.6	83.9	83.5	85.6	85.7	85.9	85.5
	山 梨	76.9	80.8	81.9	83.1	82.5	82.8	82.5	84.3	84.5	84.4	84.2
	長 野	81.8	83.8	84.3	85.4	84.8	85.1	84.7	86.6	86.7	86.7	86.5
	岐 阜	77.5	80.0	81.0	82.5	81.8	81.9	81.9	83.9	83.9	83.9	83.9
	静 岡	80.3	82.6	83.2	84.4	83.8	84.0	83.9	85.6	85.6	85.7	85.5
	愛 知	79.5	81.8	82.7	84.1	83.4	83.5	83.5	85.3	85.4	85.4	85.4
	三 重	80.1	81.9	82.3	83.6	82.8	83.0	82.9	84.8	84.8	84.9	84.7
	滋 賀	79.5	81.8	82.2	83.5	82.9	83.1	83.0	84.6	84.5	84.6	84.5
	京 都	77.0	79.2	79.6	80.8	80.2	80.2	80.2	82.2	82.3	82.3	82.2
	大 阪	76.7	79.1	79.8	81.0	80.3	80.6	80.5	82.4	82.4	82.4	82.4
	兵 庫	78.2	80.5	81.0	82.2	81.6	81.7	81.6	83.4	83.4	83.5	83.5
	奈 良	77.1	78.8	79.2	80.5	79.7	80.1	80.1	81.7	81.7	81.7	81.6
	和歌山	77.1	79.4	80.1	81.4	80.6	80.7	80.8	82.9	82.9	83.0	82.9
合	鳥 取	82.3	84.3	84.7	85.9	85.1	85.6	85.3	87.2	87.1	87.3	87.1
	島 根	83.2	84.9	85.3	86.4	85.8	86.0	85.7	87.8	87.7	87.8	87.8
	岡 山	80.6	82.5	83.3	84.3	83.8	84.0	83.7	85.4	85.4	85.3	85.3
	広 島	76.7	79.2	80.1	81.4	80.6	80.7	80.7	82.8	82.8	82.9	82.8
	山 口	80.8	83.4	84.0	85.1	84.4	84.6	84.4	86.4	86.5	86.5	86.4
	徳 島	72.5	76.8	78.4	79.3	78.7	78.7	78.5	80.7	80.6	80.9	80.8
	香 川	76.6	79.3	80.0	80.8	80.1	80.2	80.1	82.5	82.5	82.7	82.4
	愛 媛	80.0	82.3	83.0	84.2	83.4	83.7	83.5	85.5	85.5	85.6	85.5
	高 知	75.4	78.4	79.3	80.3	79.6	80.1	79.7	81.5	81.3	81.7	81.6
	福 岡	80.0	82.1	82.8	83.9	83.4	83.4	83.4	85.0	85.0	85.1	85.0
	佐 賀	81.6	83.4	84.1	85.0	84.4	84.5	84.4	86.4	86.5	86.3	86.4
	長 崎	80.5	82.5	83.2	84.3	83.8	83.9	83.7	85.6	85.6	85.6	85.5
	熊 本	81.9	84.0	84.7	85.8	85.3	85.4	85.4	87.1	87.1	87.1	87.2
	大 分	79.6	81.9	82.7	83.8	83.1	83.3	83.1	84.9	85.0	85.0	84.9
	宮 崎	83.1	85.0	85.7	86.8	86.2	86.2	86.2	88.0	88.0	88.1	88.0
	鹿 児 島	84.9	86.6	87.0	88.0	87.5	87.6	87.4	89.0	89.0	89.1	89.0
	沖 縄	87.8	89.0	89.3	89.9	89.5	89.7	89.3	90.8	90.8	90.8	90.6